

震災後初の南相馬市物産展開催

30日、杉並区役所玄関前では、東日本大震災以降、初の南相馬市特産物を集めた物産展が開催されました。南相馬市は、福島第一原子力発電所の事故で、基幹産業の農林水産業に大きな打撃を受けました。しかし、除染活動や施設農業への転換などを進め、安全安心を確保するため、放射能測定を徹底してきました。本日、店頭には並んだ農産物なども、こうした安全への配慮が行き届いたものばかりで、10時の開店と同時に多くの買い物客でにぎわいました。

福島県南相馬市と杉並区は、平成17年5月27日に災害時相互援助協定を締結しました。南相馬市は、一千年以上の歴史を持つ「相馬野馬追」が有名で、豊かな自然の中、農業と漁業が盛んです。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災では津波がまちを襲い、多くの人命や家屋、港湾での被害、農地の冠水など大きな被害を受けました。また、そこに追い討ちをかけたのが、福島第一原子力発電所の事故です。南相馬市は、市域の多くが立ち入り禁止地区に指定されたり、農産物や海産物の出荷規制を受けました。

南相馬市をはじめ、福島県の自治体の震災からの復興は、この放射能という見えない敵との戦いでした。震災前には、米や野菜を作り、収穫し食べることも、販売することも、日々あたり前ことでした。それが、原発事故後は同じに見える作物でも、出荷することができない時期が続きました。これは海産物も同様で、農業や漁業から離れる市民も多くいました。

しかし、将来に渡って南相馬市が夢を描けるまちであるために、安全安心への万全の対策を講じてきました。その一つがハウス栽培など、施設農業への転換で、トマトやキュウリなどを栽培しています。もちろん、除染なども進められ、出荷規制の解除は進んできています。



30日、杉並区役所での物産展は、東日本大震災後、初となるものです。トマトやキュウリなどの野菜や、南相馬市のソルフード「よつわりパン」などの加工品が並びました。また、南相馬市の桜井延勝市長も駆けつけ、庁内放送を使って来庁者や職員に向かって、南相馬市への支援への感謝と市民・関係者の努力で再び、まちで育てた作物を売ることができるようになったことを報告しました。その後、桜井市長と田中区長が店頭には並び、買い物客に大きな声で呼びかけていました。